



今年はいつも以上に暑く、コロナ対策のため外出を控えた夏でしたが、自宅でじっくり本を読むことができましたか。体育祭も無事に終わり、近づく秋の気配を感じながら読書を楽しんではいかかですか？

9月20日は空の日



1911年のこの日、山田猪三郎が開発した山田式飛行船が、滞空時間1時間の東京上空一周飛行に成功しました。1940年に「航空の日」と制定されましたが、1992年に「空の日」に改称されました。

📖『空の中』 有川浩 [著]

ある日、高度2万メートル上空で航空機事故が発生し、その一か月後、今度は自衛隊機が爆発する。同じ頃、近くの海辺では不思議な生物を高校生が拾う。つながりのない二つの出来事だが、実は深く関係していた。

📖『ぼくらが鳥人間になる日まで 飛べ！プテラノドン』 正本ノン・丹内友香子 共著

皆さんは「鳥人間コンテスト」というテレビ番組を見たことがありますか？この本は、ある高校の人力飛行機部がそのコンテストに挑戦し続けた15年間の追った記録です。



📖『集英社・学習漫画世界の伝記 ライト兄弟』 飯野貞雄 監修

1903年、動力飛行に成功したライト兄弟は、どんな子供時代を過ごし、飛行機以外にどんな発明をしていたのでしょうか。二人の発想力と行動力を学びましょう。

9月は黄色(イエロー)の書名本の紹介です。



『黄色い本』 緑川聖司 作

学校の新聞部に所属するゆかりと美和子は、市内で開催される「学校の怪談コンテスト」に応募するため、二十年前の怪談本のことを先生に聞き、図書室に行きます。それは、危険だから注意なさいという意味で名付けられた『黄色い本』でした。

『おばあちゃんのイエローカード』 長崎源之助 作

心平の母が入院することになり、祖母が手伝いで来てくれることになりました。毎日小言を言う祖母に嫌気がさしていた頃、夏休みのキャンプに行きます。キャンプ場近くの川に丸木橋があり、先が気になった心平が渡ってみると、そこは過去の世界に繋がっていました。

『5秒後に意外な結末 アポロンの黄色い太陽』 桃戸ハル 編著

ほとんどが2ページ完結の短編集です。喜怒哀楽の結末が、突然突きつけられる面白い作品ばかりです。「衝撃の一枚」、「新作」、「大学寮の怪」などは、今の世の中ならではの作品です。



この本、読んでみませんか？ (図書委員 翔さんおすすめ)

『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』 廣嶋玲子:作

ある駄菓子屋で売っている商品はどれも怪しげで、透明になれる飴や泳ぐのが得意になるグミなど不思議な物ばかり。そこで駄菓子を買って食べた人は、現実世界では絶対に起こらない事が起きてしまうので、ドキドキハラハラさせられます。自分ならこんな駄菓子が欲しいと考えながら読むのも楽しいです。

